

教師ノート

日付	2019年11月24日
単元	創世記・4
テーマ	神さまの守り・神さまの祝福
タイトル	ヤコブとエサウの仲直り
テキスト	創世記 32-33 章
参照箇所	創世記 29-31 章
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 詩篇 118:8	
AG 日曜学校教案参照箇所 小上 1 巻 1 題 7 課、小下 2 巻 3 題 4 課、幼 1 巻 4 題 8 課	
□導入 興味を起こす質問をしましょう 例1:ヤコブは20年ほどラバンのところにおいて、苦労もたくさんしましたが、結婚して大勢のこどもと、家畜などの財産をもつようになりました。神さまがヤコブに「先祖の国へ帰りなさい」といわれましたが、ヤコブには心配なことがありました…。 例2:あなたは兄弟(姉妹)とケンカした時、すぐにごめんなさいと言えますか?相手があやまったら、すぐに赦すことができますか?赦しあえない間は、お互いどんな気分でしょう? ☞メッセンジャーは、29章から31章をよく読み、ヤコブがイサクの家を出てからどのような生活をしたのか、しっかり理解しましょう。	
□ポイント1 ヤコブはエサウを恐れながら帰りました(32:1-20) ラバンのもとを去って、故郷に帰る途中、ヤコブに神の使いたちが現れました。特に記述されていませんが、それをきっかけにヤコブは、帰郷において最大の難関であるエサウとの和解に取り組み始めたのでしょうか。ヤコブは使者を送り、20年間で初めてエサウと連絡をとります。使者はエサウが400人を率いて迎えに来るという情報を持って帰ってきましたが、エサウの意図まではわかりませんでした。ヤコブは兄エサウに対し罪悪感をもっており、エサウがまだ怒っているに違いないと思っていたので、復讐をおそれていました。そこで、ヤコブはまず自分の宿営を守る守備的な策を講じ、それから熱心に祈りました。神のあわれみと約束をうたえる祈りは、ヤコブの成長した信仰を表しています。しかしまだ彼の心の中は、信仰と、恐れと、疑いが混ざっていたようです。神に頼るだけでなく、何とかエサウの怒りをなだめようと、綿密な計画をたてました。たくさんの贈り物を先に行かせ、しもべたちに言葉遣いや行列の歩く間隔まで指導し自分は最後に行くことにしたのです。	
□ポイント2 ヤコブは神さまの祝福をいただきました(32:21-32) ヤコブの一行は、川を渡る手前で夜を明かそうとしていました。ところが、ヤコブは夜中に起きて、家族と川を渡りました。そして自分は、反対の岸に戻り、ひとりになりました。	
☆みんなで考えよう!(1)どうして真っ暗な夜に危険をおかして川を渡ったのでしょうか?(応答例:エサウの攻撃をおそれたから。不安で寝ていられなかったから。気が動転していたから。)(2)どうしてヤコブはひとりで反対の岸にもどったのかな?(応答例:ひとりでしっかり祈りたかったから。自分だけ助かろうとしたから。ひとりで静かに眠りたかったから。)→聖書には答えが明確に記されてはいません。 その時、ひとりの人が、ヤコブに現れ格闘になりました。真っ暗で、始めは相手の正体がわからなかったはずですが、しかし、夜明け近くに、ももの付け根の間接をはずされた時、それでも必死で戦ううちに、ヤコブはその人がただの人ではなく、神の御使いだということに気付いたのでしょうか。ヤコブは御使いが去	

ろうとした時、「私を祝福して下さるまで離しません」と言いました。神は、ヤコブに自分の知恵や力に頼るのではなく、神に全てをゆだねることを教えられたのです。自分の弱さを知り、神に頼ることを学んだヤコブは、新しく「イスラエル」という名前を与えられました。この事件は、ヤコブにとってだけでなく、イスラエルの民全体にとっても重要な出来事だったので、その後の彼らの食生活にも習慣を残す程でした。

旧約聖書で人物の名前は、その人の人生を表す大事な意味を持ちます。特に途中で名前が変わる場合には特に重大です(例:アブラハム・サラ等)。ヤコブという名には、「押しのける者」という意味がありました。御使いに「ヤコブです」と名乗ったとき、今までの人生(特に兄への罪)を告白したことになります。しかしそれによって、新しい名前(人生)を与えられました。「イスラエル(神は争われる)」は国の名前となり、ヤコブは契約の民の父として、神とも人とも新しい関係を築きます。

ポイント3 ヤコブはエサウに受け入れられました(33章)

ヤコブの態度に変化が現れます。エサウと400人の姿を見ても、動揺せず、彼は列の先頭に立って進みました。そして小細工ではなく、真心から兄に礼を尽くしました。7回も地にひれ伏すのは、臣下が王に対してささげる態度です。その態度がエサウの心を動かしたのか、その前から赦していたのか明確にはわかりませんが、エサウは、過去の怒りを忘れ、弟ヤコブを受け入れました。ふたりは抱き合って泣きました。ヤコブは、その後のやりとりでも、終始エサウを自分の主人のように、尊敬して接しています。「私はあなたの顔を、神の御顔を見るように見えています。あなたが私を快く受け入れてくださいましたから」というのも、オーバーなお世辞ではなく、その敬意の表れです。そして同時に、この和解のすべての過程に神が働いてくださったことを信じて、ヤコブは、エサウの笑顔を通して神のあわれみに感謝したのでしょう。

結論 神さまはヤコブに、神さまを頼るべきことを教えて下さり、エサウと仲直りさせてくださいました

ヤコブは今まで、人間的な手段で成功してきました。そしてエサウと再会するときも、色々な手段でエサウの怒りから助かろうとしました。しかし御使いにもものつがい被打れたヤコブは、必死で神に頼ることを学びました。神はそんなヤコブをあわれんで祝福していただきました。神はヤコブに、新しくイスラエルという名前を与え、エサウと仲直りさせてくださいました。 暗唱聖句を読み上げます

適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)あなたは、人間的な策を考える前に、神さまに頼っていますか？自分の能力や知恵を駆使することは確かに大切なことです。しかし何よりも優先に、神さまの愛と力を求めて頼りましょう。その時必ず心に平安が与えられ、助けが与えられます。「どんなことがあっても神さまがいるから大丈夫！」その信仰を持った上で、自分の精一杯の力を出し切るようにしましょう。(例えば、祈っただけではテストで100点は取れません。勉強するのはあなたです。でも神さまは、あなたの心を不安や恐れから守ってくださいます。その上であなたが全力を尽くせば、集中力を与えてくださったり、覚えたことを思い出させてくださったりして、必ず良い結果を与えてくださいます。)

例2)あなたには、まだ仲直りできていないお友だちがいませんか？ヤコブとエサウのお話は、単なる仲直りのドラマではありません。ヤコブは神さまと良い関係になって、自分がまず変えられたのです。素直にごめんなさいと言える心が与えられるように祈りましょう。「相手の方が悪いのだから、謝る必要は無い！」と思っている人も、もう一度、自分にできることはないか、神さまに聞いてみましょう。

例3)あなたは、ひとりで神さまに向き合う時間をもっていますか？神さまは、あなたのどんな悲しみも全て理解して下さるお方です。「だれもボク(ワタシ)のことわかってくれない！」と思ったとき、心が落ち着かないとき、ヤコブのように、神さまにしがみついても、大胆に自分の気持ちを打ち明けましょう。あなたが人に頼るのではなく、神さまに向き合って相談することは、神さまにとっても嬉しいことなんですよ。そして、神さまがあなたに語りかけてくださる声を聞きましょう。